

平成 28 年度

決算を報告します

■問い合わせ 財政課Tel 23-3025

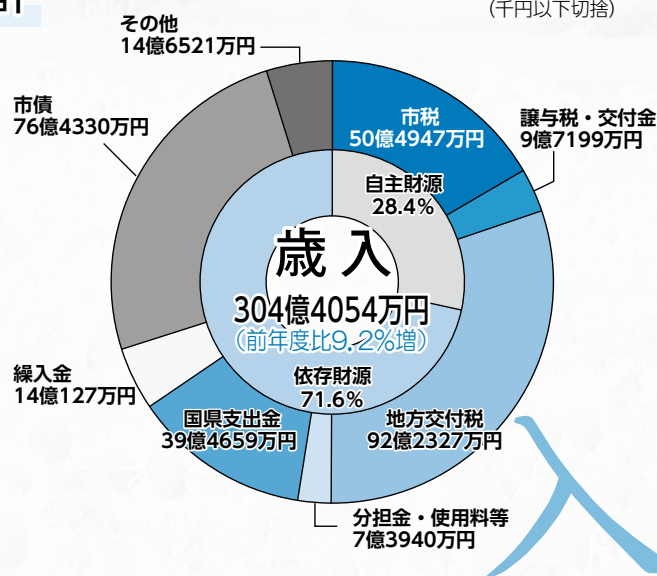
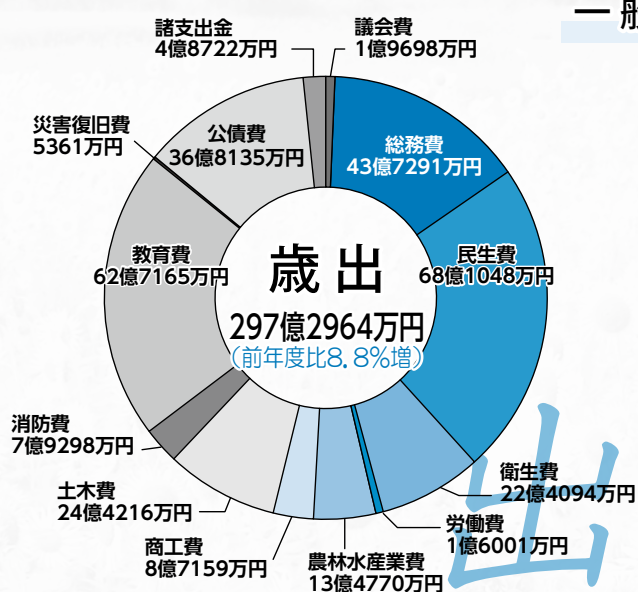
平成28年度決算がましまり、9月1日開催の定例議会に提出しました。一般会計の決算額は、歳入総額304億4054万円、歳出総額297億2964万円、形式収支は7億1090万円となりました。その内、年度内に事業が終わらないために翌年度に繰り越した事業の一般財源が1億9297万円で、実質収支は5億1793万円となりました。

安来市が将来に向けて持続的に発展していくためには、健全で安定した財政基盤の確立が必要です。

今後も自主財源の確保に努め、一層の行財政改革を進めています。また、限られた財源を有効に活用するなど、中長期財政見通しに沿って財政健全化を一層進めたいと思います。

一般会計

(千円以下切捨)



■歳出総額は前年度比 8.8%の増

主なものとして、総務費が安来庁舎建設事業により22.9% (8億1425万円) 増、衛生費が病院事業への負担金の増などにより14.4% (2億8144万円) 増、土木費が中海ふれあい公園整備事業の減等により20.0% (6億948万円) 減、教育費が総合文化ホール建設事業により81.3% (28億1240万円) 増、災害復旧費が雪害による被害等もあり53.3% (1864万円) 増となりました。

■歳入総額は前年度比 9.2%の増

主なものとして、法人市民税及び固定資産税(償却資産)の増により地方税全体では2億1375万円の増、地方交付税は税収の伸びなどの影響により1億1291千円の減、県支出金は中海ふれあい公園整備交付金の減などにより9億8937万円の減、繰入金は庁舎等整備基金や財政調整基金取り崩しなどにより8億1073万円の増、地方債も安来庁舎建設事業や総合文化ホール建設事業により25億1790万円の増となりました。



平成 28 年度の主な事業

●就農・定住パッケージ事業

…………… 4577万円

UIターンによる新規就農および定住促進を図るため、就農者定住促進賃貸住宅を整備しました。赤江・比田地区 各1戸

●道路・交通ネットワーク整備

…………… 9億5069万円

安来港飯島線、沢吉岡線、木戸川東線、中島津田平線道路改良事業等を行いました。

●給食センター運営事業…8991万円

第一中学校、第二中学校、第三中学校、広瀬中学校、安来幼稚園に給食を配食しました。



●企業立地雇用促進奨励金事業

…………… 6436万円

企業の設備投資、新規雇用、空き工場等の家賃に係る経費を奨励金として交付し、企業を支援しました。

●月山誘客推進事業……………161万円

月山山頂部オープニングイベントや戦国歴史プロモーション、観光PR画像用の空撮、ボランティアガイド養成講座を実施しました。



●介護人材育成支援事業… 144万円

介護福祉士の国家資格取得のため、就業者が通学する間の生活費支援を事業者が行った場合に一部を助成しました。

●不妊治療費助成事業 … 431万円

一般不妊治療及び不妊検査、人工授精費用などの助成を市独自で行いました。

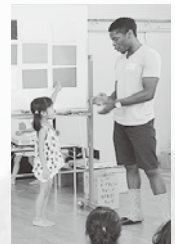
●就学前保育料無料事業

…………… 2746万円

就学前の第3子以降の4・5歳児の保育料を無償化しました。

●外国語指導事業…………… 1746万円

小中学校、幼稚園、保育所、認定こども園へ外国語指導助手（ALT）4名を派遣しました。



■指標でみる市の財政状況

経常収支比率 94.1%

財政構造の弾力性を示す指標。100%に近いほど硬直化しているといえます。前年度より2.4ポイントの減となりました。

地方債現在高比率 261.1%

将来の公債費負担や地方債の発行可能額を把握するための指標。300%を越えると危険エリアとなります。市債(借入金)の新規発行額の増加により、前年度より32.0ポイントの増となりました。

基金現在高比率 60.8%

将来への蓄えを把握するための指標。50%以上が健全エリアになります。新規積立等により、基金現在高は8億6561万円の減で、前年度より5.3ポイントの減となりました。

特別会計

●平成28年度歳入歳出決算額および対前年度比較表 (単位：千円)

会計名	歳入 (収入)		歳出 (支出)	
	平成28年度	対前年度増減	平成28年度	対前年度増減
特別 会計	国民健康保険	5,180,642 △ 155,713	5,089,141 △ 242,470	
	後期高齢者医療	1,027,752 18,098	1,017,497 17,385	
	介護保険	4,786,687 102,158	4,595,205 81,962	
	電気	102,587 △ 166,500	100,829 △ 163,885	
	下水道	3,117,668 279,361	3,115,688 278,682	
	簡易水道	1,407,893 512,740	1,090,218 195,163	
公営 企業 会計	水道	722,257 16,010	697,439 38,816	
	安来市立病院	3,071,396 150,309	2,995,359 △ 10,018	

●特別会計等の決算状況

安来市の会計には、一般会計のほか、国民健康保険事業や介護保険事業などの「特別会計」や水道事業や病院事業などの「公営企業会計」があります。

いずれも国民健康保険税や介護保険料、水道料金や医業収入など特定の収入を財源に事業を行っており、その収支状況を明確にするため一般会計とは別に会計処理を行っています。



安来市の財政状況

全ての指標で基準値をクリアしています

地方自治体は、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、財政健全化度を判断する指標が設けられています。

基準を下回ると財政健全化計画の策定や、国等の関与による確実な再生が求められます。

平成28年の指標は全て基準内でしたが、今後も一層の健全経営に努めます。

■資金不足比率

一般会計の赤字にあたる公営企業会計の資金不足を、公営企業の事業規模である料金収入等の規模と比較して指標化し、経営状況の深刻度を示すのが「資金不足比率」です。

安来市では病院事業会計で1億4033万円の資金不足が発生しました。 **決算における資金不足比率** (単位：%)

項目	28年度	経営健全基準
水道事業	—	20.0
病院事業	5.9	
電気事業	—	
簡易水道事業	—	
下水道事業	—	

病院事業会計の資金不足比率は5.9%となりましたが、これは経営健全化基準(20%)内となっています。 ※黒字の会計は「—」表示にしています。

■将来負担比率

(124.2%)

地方公共団体の借入金(地方債)や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高の程度を指標化し、将来負担を圧迫する可能性が高いかどうか示すのが「将来負担比率」です。前年度より17.6ポイントの増となりました。

■実質公債費比率

(15.4%)

一般会計と公営企業会計等の借入金の返済額に対して一般会計から繰り出す額や、将来の支払いを約束した経費の中で公債費に準ずるものなどの大きさを指標化したもので、資金繰りの危険度を示します。前年度より0.4ポイントの増となりました。

■連結実質赤字比率

(一)

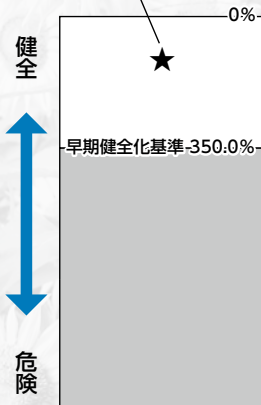
一般会計と8つの特別会計の赤字と黒字を合算し、地方公共団体としての赤字の程度を指標化し、運営の深刻度を示すのが「連結実質赤字比率」です。安来市では、全ての会計を合算すると黒字決算になり、算定されません。

■実質赤字比率

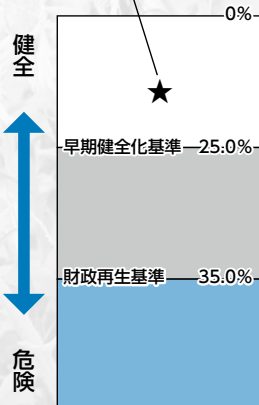
(一)

福祉、教育、まちづくり等を行う地方自治体の一般会計の赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示すのが「実質赤字比率」です。安来市は、黒字決算となり、算定されません。

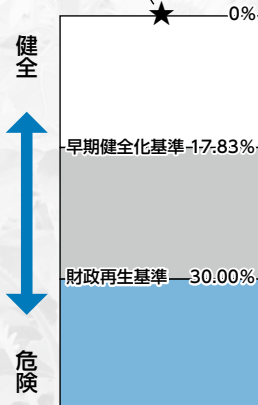
安来市：124.2%



安来市：15.4%



安来市：赤字はありません



安来市：赤字はありません

